

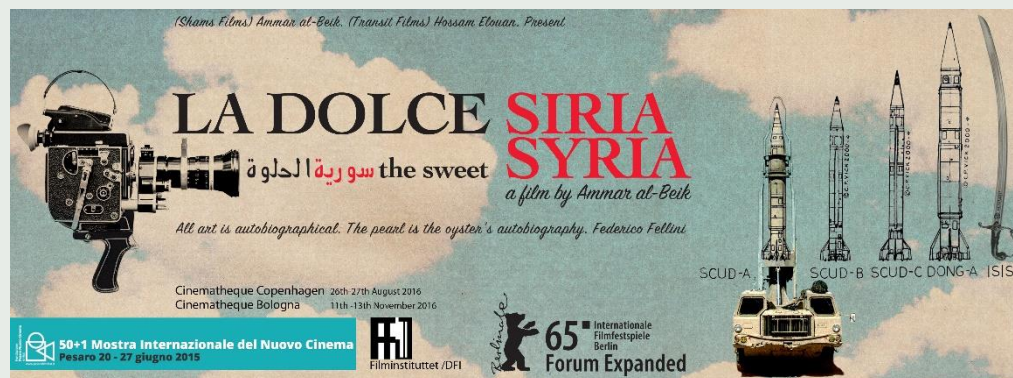
映画シンポジウム「アジアを知る」

Considering Syria

Through “Syrian Trilogy” of Short Films by Ammar Al-Beik

シリア出身で現在はベルリンを拠点に活躍する映像作家で美術家のアンマール・アル＝ベイク氏を迎え、2011年以降のシリアをテーマに制作された短編映画3作品を上映する。後半は来日中の監督と、シリアに長く暮らした経験を持つ岡崎弘樹氏（アラブ政治思想研究）の対談形式で、監督のアーティストとしての活動を紹介。

昨今多くのシリア映画が日本に紹介されたが、民衆蜂起とそれに共鳴した人々の私的な空間とのつながりは長らく謎であった。私と公、現場と亡命先、希望と憤慨と諦念が交錯する3作品を通じて表現された8年間、そして今について語り合う。



短編映画「シリア三部作」から考える シリアの今 アンマール・アル＝ベイク 監督を迎えて

日時：2019年 5月10日(金) 18:30-21:00

会場：東京大学 東洋文化研究所
3階大会議室

登壇者：アンマール・アル＝ベイク監督
岡崎弘樹氏 他

プログラム：

司会：山本薫（慶應大学）

18:30 開会の言葉（後藤絵美 東京大学）

18:40 短編映画『シリア三部作』上映開始

「太陽のインキュベーター（The Sun's Incubator）」11分、2011年。

「シリアの甘い生活（La Dolce Siria）」26分、2014年。

「万華鏡（Kaleidoscope）」20分、2015年。

19:50 アンマール・アル＝ベイク監督×岡崎弘樹(学術振興会研究員)

20:30 質疑応答

21:00 閉会の言葉（長沢栄治 東京外国語大学）

※先着50名

事前に参加希望のご連絡をください。
入場証をお渡します。
mecinema2014@gmail.com



※参加は無料です

主催：科研費新学術領域研究「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて」計画研究B01「規範とアイデンティティ:社会的紐帯とナショナリズムの間」（代表：酒井啓子）、
東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
共催：科研費基盤研究(A)イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究（代表：長沢栄治）
東京大学 東洋文化研究所、中東映画研究会
協力：ゲーテ・インスティトゥート東京